



幼児の笑顔のために

令和 6年 10月22日 No. 30
流山市教育委員会指導課
幼児教育支援センター発行
TEL 7154-8081

幼児教育支援センターだより

人は、“おぎゃー”と生まれた瞬間から、一個の人格を持って生まれてくるといわれています。その人格とは、親のどちらとも違い、全く新しい個性であり、ほかの誰でもない魅力をもった子どもなのだと思います。そして、親からの無償の愛や、周りの人物・環境から、様々な影響を受け、個性が磨かかれています。では、どのような環境(家庭・集団生活)があれば、個性が磨かれていくのでしょうか? どのような幼児期を過ごせば、主体的に生活できるようになり、幸せな人生に向かって行けるのでしょうか? 一緒に考えてみませんか?



子どもが生活習慣自立に向けて

見通しをもつためには?

1

「自分で」の気持ちを大切に♡
自分でやりたい気持ちを尊重、もしできなかったとしても、頑張って取り組んだことをほめましょう。

2

環境を整える♡
ズボンやパンツをはきやすいようにトイレの前に用意するなど成功しやすい環境を整えましょう。

3

見通しがきちんともてるように♡
子どもが見通しを持って次の行動までやりとげられるように動線上にはおもちゃなどが目に入らないよう片づけたり、布で覆ったりと工夫が必要です。

4

子どもの動線を確認してあげましょう♡
子どもがやっていることに集中できるように、場所の確保に心掛けましょう。

5

子どもが判断して動けるように♡
遊びが続きある程度充実してきたら、大人は声をかけず子どもが自分で判断できるように見守りましょう。

6

子どもの行動パターンを変えないように♡
よほど改善が必要でない限り、子どもが混乱しないように習慣となった行動パターンは、なるべく変更しないようにしましょう。



生活習慣の身につけガイド 塩屋香監修より抜粋

以上のことは、園生活においても行われ保育者と子どもの信頼関係が築かれていきます。子ども自身が生活習慣の自立に向けて、いろいろなことに見通しを持てるためには、家庭と園が連携し、同じように生活できる環境が必要になります。子どもを真ん中に、どのようにすればより良い成長を望めるのか考えていきたいですね。





知らず知らずのうちに、受け身になっていませんか！

「先生！次は何したらいい？」と、答えを求めてくる子がいます。はじめはひとつひとつ答えていたのですが、先生は考えて、「次は何をしたらいいと思う？」「何をしたいの？」と先に問いかけるようにしました。すると「〇〇したいのだけどいいかなあ？」と子どもの質問が変わってきたそうです。言われてから行動するというのは、常に受け身であり、指示待ち人間になりかねません。

ご家庭でも、子ども自身が時間や行動に気づけるような質問をし、答えさせてあげる工夫をする事で子ども自身が進んで行動できるようになるのではないのでしょうか？ 子ども自身が生活に見通しをもちながら、生活することはとても大切です。

ことばを増やすにはどうしたらよいの？

幼稚園や保育園で生活するには、先生や友達という環境があります。幼児期の子ども達は急激に発達していき、友達や先生とコミュニケーションを取ろうとしていきます。そのためには、言葉や表現が必要です。語彙そのものは記憶されていきますが、必要な言葉を必要な時に使えるというのは、難しい年齢といえます。まずは、子どもとの触れ合いも兼ねて遊んであげましょう！

例えば、

『あ』の字のつくもの“な～んだ”♡

『てぶくろ』反対からよむと？“ろくぶて” 他
なぞなぞ遊び、雨の音はどんな音？

絵本は“こころ”の栄養

皆さんは、「三年寝太郎」という昔ばなしを知っていますか。干ばつに苦しんでいた村で三年もの間、何もせず寝ころがっていた寝太郎が、ある日突然起きだして、山の上から巨石を動かしました。巨石は谷に転がってぶつかり続け、ついには川をせき止め、川の水が田畑に流れ込み村が助かったというお話で、寝太郎は怠けていたわけではなく、いかにして灌がい成し遂げ村を干ばつから救うかを考えていたというお話です。

絵本の中には、子どもが体験できない知恵や知らない世界が広がっています。昔ばなしの中には、大切な教えが含まれているものもあります。

本屋さんや図書館など、普段読まない分野の絵本も含めてたくさんの蔵書があります。ぜひ、絵本を読む時間をおとして、豊かな心を育みたいですね！

✿文字だけを覚えても絵と同じように入ってくるだけで、感情や豊かな感性は育ちません

※読めるようになって、大人が読んであげて作者の意図がわかるようにしてあげましょう！

流山市では、6月～7月に園の教職員が小学校を見学し、就学してからの場や姿を理解し、10月～12月には小学校の教職員が園へ出向き幼児教育を理解するなど、子どもたちのスムーズで円滑な連続した学びについて勉強し、子どもたちをサポートしています。

3歳から5歳は、小学校以降の基盤になる時期です。何が必要で何が大切なのか、一緒に探しながらより良い環境づくりをしたいと思っています。

幼児期にたくさん遊ぶことは全ての学びに繋がっています。文字や計算を覚える以前の意欲・関心・興味を大切にしたいものです。



電話相談・来所相談をおこなっています。



【幼児教育相談】

TEL 04-7154-8781

受付 月・火・木 9時から14時

